

さくら



令和8年9月7日(月)

幸せのハードル

友人【原田 隆史（はらだ たかし）氏】が、32冊目の本を出版しました。原田氏のどの本を読んでも、頑張るぞという意欲がわいてきます。今回の本のタイトルは「仕事も人生も好転する198の言葉 目標達成マインド」。本の帯には「成功は技術だ 言葉が変われば、現実が動き出す」とあります。作品では「幸せ」について書かれた項目があり、その中の一つを、著者の了解を得たうえで全文を掲載します。

幸せのハードルを下げる

「年商1億円」「金メダルを2個とる」など大きな目標や大きな幸せを追うことは大切です。しかし、身の回りにある小さな幸せも、同じくらい大切です。

ある知人は、両親共働きで物理的に時間もお金もない環境で育ちました。それでも、たまの銭湯、食後にりんごをみんなで剥く、そんな些細なことに楽しみを見つけていたといいます。

今でも幸せのハードルが低く、どんな小さなことにも幸せを感じられると話してくれました。目指すもの、人生をかけて挑戦したいものは大切にしながら、身の回りでは幸せのハードルを下げてみる。お金があるかどうかではなく、幸せの価値観の持ち方の問題です。

「もしも」の話として考えてみてください。大人になったあなたは、宝くじで1等を当てました。「まさか」の大金を手にしたのです。欲しいものは何でも手にいれることができます。しかし、家に帰っても家族との会話はありません。家族関係がギクシャクして、あなたは強い孤独を感じるのです。手にした大金は、欲しかったものをすべて与えてくれました。しかし、心は満たされません。

お金は生活をしていくうえで重要です。しかし、どれだけお金があっても、心を通わせる人(家族など)がいない、小さな出来事を喜び合える関係がない暮らしは、あなたを本当に幸せにしてくれるでしょうか。

幸せとは、手に入れたお金、仕事の成果、社会的地位などだけで決まるものではありません。身近な日常の中に、どれだけ喜びを見出せるかという「価値観の持ち方」によって決まるのではないのでしょうか。

幸せのハードルを下げ、皆さんの足元にある小さな幸せに目を向けてみましょう。そうすることで、皆さんは豊かな人生を歩むための一步を踏み出すことができるのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

